

JCI-TC152A

性能規定に基づく ASR 制御型設計・維持管理シナリオに関する研究委員会

## 第 2 回幹事会議事録

日時：2015 年 9 月 18 日（金）15 時～17 時

場所：岡山大学 第 V 部門会場内 16 番講義室

出席者：山田，山本，上田，小川，久保，佐川（敬称略）

配布資料：幹 2-1：第 2 回全体委員会議事録（案）

幹 2-2：今後の進め方

幹 2-3：共通試験実施機関の募集について

議事：

### 1. 今後の運営方針

- ・平成 28 年度の初めにミニシンポジウムを予定する。年度初頭（例えば 4 月）に開催できるか、事務局に確認する。規準関連委員会に AAR3 および DD2 改訂の進捗を確認する必要があるが、改訂講習を取り入れたい。規準関連委員会の所掌事項であるので、両委員会に所属する鹿毛委員にお願いすることを考える。3 月に開催の可能性が生まれている金沢シンポジウム（仮）に Somnuk 先生（タイ），Shayan 先生（オーストラリア）が来日する機会を利用して、招待講演を企画してもよい。また、構造性能評価の一例を示すことを考えたい。
- ・旅費および共通試験経費確保のための科学研究費補助金への申請を考える。構造性能評価を主題に幹事長が代表で基盤（A）に、共通試験で佐川幹事が基盤（B）に申請する方向とする。分担者の割振りは、幹事長と佐川幹事が相談する。
- ・12 月に全体委員会（各 WG 併催）を予定する。幹事長が日程調整を行う。10/16-17 の JSMS アップグレードシンポジウム時に WG を開催する場合の会場は幹事長が用意する。各 WG の開催に伴う委員の旅費は各自が用立てる。このため、無理な参加を要求することなく、メール主体の活動とするなど、各 WG で開催を判断する。
- ・第 2 回研究委員会（親委員会）への中間報告資料に、予算増額要求を追加する。

### 2. 各 WG の当面の検討事項

#### 2.1 WG1

- ・共通試験実施機関の募集アンケートを実施する。実施予定の有無を中心として伺い、実施の希望があつて、必要な機器で不足がある場合は、その調査を行う。一次送付先は、現委員会と前委員会のメンバーとする。必要材料は委員会より支給（無料と）するが、送料等については今後相談する。急速膨張性骨材利用の配合をペシマム（30%），100%

のいずれにするかについて、参加希望機関の数と保有量の観点も含めて今後検討する。遅延膨張性骨材は100%の配合とする。参照とするモルタルバー法の実施、大型暴露供試体の作製ならびに暴露設置は今後検討する。

- ・アルカリラッピングを行う残存膨張試験の実施を実構造物や大型暴露試験体からのコアで実施することを模索する。電力各社の協力を取り付けるのは難しく、阪神高速等に期待したい。

## 2.2 WG2

- ・外観変状調査やモニタリングに関する文献、および補修の実態に関する調査を行う。得られるASR劣化情報が構造性能評価の入力として利用できるものであるか、WG3と協力して整理する。必要であれば、今後、採取コアの力学特性データの文献収集にも拡張する。
- ・前委員会の診断フローについて、現場実装への問題点を手近な管理者を中心として調査する。ただし、一般的な維持管理の流れの中であって、ASRに調査が特化された状況で利用できる診断の手順であるため、調査先やヒアリングの内容については今後精査する必要がある。

## 2.3 WG3

- ・ミニシンポジウムに向けて構造系を特定したケーススタディーを通して、入力から出力までの流れ、情報整理を行う。実構造物から得られる入力情報の検討ではWG2との情報交換を行う。仏Ifsttarや加ハイドロケベックなどでは、構造性能予測に重心を置いた検討が進んでいる。ISR (Saouma教授らの検討) では、ベンチマークとなる構造として耐震壁を想定しているようであり、高橋委員を通じた情報入手により、本委員会の対象構造として利用できるようであれば検討してもよい。

## 2.4 全体

- ・新設構造物に対するASRの考慮も検討する。CSAを参考としたNZ指針が入手できたので、佐川幹事よりスキャンデータを幹事団に配信する。基本は骨材の判定および配合試験を軸とする流れと、アルカリ量検討を軸とする流れから構成される指針である。これら欧米の指針では、構造物の重要度と作用環境の状態から、反応抑制あるいは制御を分類することを基本としているが、コンクリート示方書ではこのような作用に関する標準仕様はない。次期示方書改訂に際して、耐久性確保のためのASRへの言及が設計編に取り込まれる可能性もある。
- ・委員長所有のOECD原子力安全委員会の資料について、部外秘であるが参考文献情報など差し障りのない部分で共有できるとよい。

(文責：山本)